



～（女性建築士の輪）～

奈良県建築士会 女性委員会
2018 年 冬号
第 92 号



浄瑠璃寺／京都府

目 次

■ 第 60 回建築士会全国大会 京都大会に参加して	武市 啓子	1 ページ
■ 大阪府建築士会 女性分科会 30 周年記念事業の報告	本保 万貴子	4 ページ
■ 連合会女性委員会「魅力ある和の空間ガイドブック」推薦	岩城 由里子	5 ページ
■ 和室部会“温故知新”改修工事現場見学会	小笠原 香代	6 ページ
■ わたしの好きな格子	石黒 國子	7 ページ
■ 今後の事業予定		8 ページ

第60回建築士会全国大会京都大会に参加して
武市 啓子

昨年12月8日、9日、京都市勧業館「みやこめっせ」で開催された、第60回建築士会全国大会京都大会「山と町と木造建築」に参加しました。本大会は、(一社)京都府建築士会が3年前からキックオフミーティングなどを行い、木造建築の魅力とこれからの建築と暮らしを考える場として開催されました。日本人が長い時間を経て培ってきた暮らしの知恵、文化や美意識も木造建築を中心にはぐくまれてきたという事を基にして“木造建築を再認識し景観まちづくりに生かす”をテーマとしています。

○記念フォーラム「山と町と木造建築」

「山」・安田哲也氏からは、山から町への木材の流れをどう作るか、「まち」・秦めぐみ氏からは、木のある暮らしの生活文化や地域コミュニティへ果たす役割について、「木造建築」・三澤文子氏からは、先の見通せない時代の中で大きな可能性を含む木造建築の未来の姿について、3人の方からリレースピーチがあり、京の町屋を考える良い機会になりました。



オープニングセレモニーとして、番匠保存会による「鉦はじめ」があり、いよいよ開会となりました。開会宣言の後に表彰式があり、奈良からは、立辻利治氏と水尾好秀氏が、平成29年度 連合会会長賞に表彰されました。おめでとうございます。

京都大会開会に先立ち、午前中から交流セッションー女性委員会+福祉・防災まちづくり部会合同セッ

ションに参加しました。

テーマ：コミュニティケア型仮設住宅を考える。

○「木造での仮設住宅について」

東日本大震災時、岩手県釜石市、遠野市に建設された、コミュニティケア型仮設住宅のコンセプトは、コミュニティごとの入居者選定、面積が異なる住戸で住棟を構成、共用施設の設置（サポートセンター、仮設店舗）、屋根付きデッキ、コモンアクセス（玄関が向かい合う仕様）、リビングアクセス型の間取り（人の気配を感じる）等。

災害時にも地域住民の暮らしを支える、安全で快適な場の在り方について考えていきます。

○女性委員会から

平成29年度全国女性建築士連絡協議会のテーマ

「みらいをつなぐ居住環境づくり」サブテーマ「和の空間を考える」として、住まいの中から失われつつある和の空間を共に考え、改めて捉えなおしこれからの居住環境づくりに生かしたいとの発表がありました。「魅力ある和の空間ガイドブック」（データ版）について、全国各地で公開されている和の空間の事例の中から魅力的な物、これからの居住環境への示唆に富んでいるものを紹介するガイドブック作成の報告がありました。

○「福祉避難所の運営状況について」

女性委員会委員福祉避難所：福祉避難所とは、指定避難所での生活が困難な高齢者や障害を持った人たちが等の、災害時要配慮者を受け入れる為に開設する二次避難所の事。阪神淡路大震災時の取組の総括「災害救助研究会」においてはじめて報告がありました。東日本大震災時に、施設も被災し予想していた半分の施設しか福祉避難所を開設できず、急遽他のグループホームなどを追加したこともあり、当時の教訓を生かしてなるべく多くの施設と協定を結ぶ等、福祉避難所の運営状況についての報告がありました。仙台市の場合、29年度中に出産間近な妊婦や産後間もない産婦、新生児を受け入れるため周産期福祉避難所について、6大学と協定を締結、備蓄や防災無線が完了しています。又、京都市も全区において、

妊産婦等福祉避難所事前指定施設が確保されています。

福祉避難所の課題について、各施設は元々障害者施設などで、バリアフリーの建物でありハードの問題は基本的にあまりありません。災害時に施設職員だけでは運営不可能なのでボランティアが必要であり、常日頃より地域の中に支援の必要な施設や、支援の必要な住民がいることをわかってもらい、協力してもらう事が大切だとの報告でした。

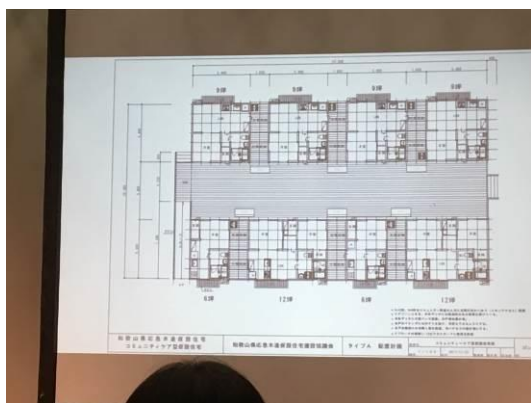
○「防災まちづくり部会」からの報告

平成 29 年度 防災まちづくり部会行動計画

「防災まちづくり部会」活動の目的と基本方針について、平常時より建築士・建築士会が地域や行政と「普段付き合い」することによって災害時の迅速な復旧復興ができる。こうした「事前の備え」が重要です。

「木造応急仮設住宅の供給」支援の取組の報告がありました。

災害の復旧対策として、プレハブの応急仮設住宅ではなく、地域の木材や工務店を活用した木造応急仮設住宅が増加しており、熊本地震の際も供給してきました。これまでの応急危険度判定や住宅相談などの災害復旧・復興策に加え「木造応急仮設住宅の供給に係る建築士等連絡会議」を設置するとの報告がありました。



○「福祉まちづくり部会」の報告

「福祉まちづくり部会」行動計画について

- ・目的・目標—福祉分野の建築士育成
- ・目指す方向—「やさしい住まいづくり」と「やさしい町づくり」2つの方向を目指す。

2020 東京オリンピック・パラリンピックに関するバリアフリー、ユニバーサルデザインの取組を目指す。同上公募への参加と「福祉まちネットワーク」構築に協力をお願いしますという報告でした。

○「十津川村の新たな集落づくりにつながる復興住宅の取り組み」

2011 年 9 月「紀伊半島大水害」に襲われた後、被災者のための「木造応急仮設住宅」、「復興公営住宅」の順で建設が進められた。「復興公営住宅」については、村再生の取組の一つである「十津川産材による村の風景と調和した木造による住宅づくり」



をめざし、高森地区に高齢者向け住宅を中心とする「高森のいえ」（ふれあい交流センター）を建設、「いつまでも村に残り住み慣れた地域で暮らしたい」という声に答えて、復興から集落づくりへすすんでいるという報告でした。

震災があっても、木造の仮設住宅や、「誰もが住み慣れた土地（村）で最後まで暮らす」という、人としての生き方ができるそんな取組が大切だと感じました。日頃からの地域住民とのコミュニケーションが大事です。

女性委員会+福祉・防災まちづくり部会合同セッションでは、どの部会も普段からの地域とのコミュニケーションが大切と言われていました。災害時に大切なのはやはり地域の協力ではないかと思います。

大会 2 日目は、

○エキスカージョンのJコース「清水寺・六原界隈のいま」に参加

最初は、清水寺平成の大修理工事の現場です。「清水の舞台」で知られる清水寺では、清水寺学芸員の坂井輝久氏の案内の下、清水寺の成り立ちからお話を伺いました。清水寺は、大和の国の延鎮が音羽の滝に草庵を営み、それに帰依した坂上田村麻呂が仏殿を建立

して千手観音像を安置したのが始まりとされています。現在の本堂は寛延



6年の火災後に徳川家光の命により、寛延8年から10年かけて再建されたものです。本堂は国宝に、15棟が重要文化財に指定されています。

平成の大修理は、平成20年度から始まり、国宝の清水寺本堂だけでなく、境内の重要文化財8棟を2年かけて順次改修する大掛かりな工事です。現在は「清水の舞台」を擁する「本堂」と釈迦堂の修理が行われています。平成28年度より檜皮葺の屋根葺き替え工事中で檜皮を取り除いたところでした。素屋根に覆われている内部に入り、その梁や桁を直に見学できその大きさに改めて感動しました。またこの工事に関わることによって、次世代に檜皮葺の技術や大工仕事も受け継がれていくことがとても大切なことだと感じました。

その後、六原学区にて（1965年くらいまでは、この地でも登り窯が多数あったとの事）、清水焼のろくろ体験をして、これが結構難しかった。何とか作品を作り上げ（もちろん手伝ってもらいながら）、今は作品（お椀）が届くのを楽しみにしています。

最後は、

○「六原まちづくり委員会の空き家対策と防災まちづくり」

六原学区にて進められている地域住民主体の空き家対策と防災まちづくりのレクチャーです。京都市内でも東山区は、高齢化率と空き家率が最も高い行政区となっています。いま日本各地で問題になっている空き家、個人資産なので第三者が口出しできないとの観点から、空き家は所有者の問題と捉えられがちですが、本当にそれだけでしょうか？「空き家は町の問題」という視点のもと地域住民と行政、大学、専門家が連携して空き家対策の取組を続けておられます。地域住民の方に、『空き家ではないですか？』と聞いてみても、『倉庫に使っています。』という返事、実はただの物置になっていることもあります。でも、残された家族だけでは片づけができない状態にあることも事実。実際の例が紹介されました。まちづくり委員会18人がボランティアで3時間かけて荷物を運び出し、行政の補助金や専門家の助けを借りて、リフォームも済（この例では、借り手の方がやっていました。）、空き家を人に貸すことが出来たとのこと。大変だけど、最後の写真で大家さんも借り手もすごくいい顔をされていました。

日本中に現在も多数在り、これからも増えていくであろう空き家の一つの解決策を見た気がしました。



大阪府建築士会 女性分科会 30 周年記念事業の報告

本保 万貴子



2017 年 10 月 28 日(土)午後 2 時から「集まれ！けんちく女子 WORLD Café ～建築女子が築く未来～」と題した大阪女性分科会 30 周年記念事業に出席した。当日は、あいにくの雨だったが、近畿

各地から 100 人以上の参加者が会場の大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）に集まった。

第一部は、参加者全員によるワールド・カフェ方式のグループトーク。ワールド・カフェとは「知識や知恵は、会議室ではなく、人々がオープンに会話し自由にネットワークを築くことのできる『カフェ』のような空間でこそ創発される」という考え方に基づいた話し合いの手法だそうだ。

参加者は 8 人程度にグループ分けされ、飲み物とお菓子とペンを握って、グループ毎



に与えられたテーマについての意見を、テーブルに広げられた模造紙に書き込んでゆき、順に意見の説明をする。

切り口は「建築女子がきずく未来」。

＊なぜ建築に関わっているのか

＊建築女子が活躍するために必要なもの

＊建築女子が考える魅力的な社会・都市・建築。

参加者は 1 ラウンド 30 分でテーブルを移動し、新しい人とグループになる。このグループ分けは受付で配られた名札にすでに記載されていて、名札の裏には「今日の愛称」「職業」「自己紹介」を書き込む。ラウンド毎にテーマもメンバーも変わるので、この名札が自己紹介となる。テーブルは 12。同じ人とは

二度と一緒にならないので、グループ分けはかなり大変だったろうと想像される。あっという間の 90 分はす

ごい盛り上がりで、いろいろな分野の参加者の話を聞くことで、刺激を受けた。

第二部では、各ラウンドのグループ毎に議論内容が報告された。同じテーマでも全く違った意見や結論が出てくるのが面白い。また、第一部から出席していた協賛団体代表者や近畿士会会長らが集まった男子会テーブルでは、建築業界の女性の活躍について座談会が、想定外に突然始まり、第二部でその内容も発表され興味深かった。



その後、国土交通省住宅局長の伊藤明子氏の基調講演「建築女子に期待する」。

内容は、1. 日本社会の現状、2. 女性活躍の現状（民間部門・住宅建築産業部門・政府の取り組み）、3. 住宅建築産業の現状、4. 建築女子に望むこと。働く女性を主軸に

様々な経年変化のデータに裏付けられた目から鱗の歯切れの良いトークは圧巻。納得の 50 分だった。

第三部は懇親会。第一部で初めてお目にかかった方達とテーマを離れてのおしゃべりは、楽しかった。

各地の女性委員会は 25 周年や 30 周年を記念して冊子などを作成している。○周年と銘打ってイベントを開催する是非はあるが、盛りあがるのなら何でも良いと思う。我ら女性委員会は、20 周年が平成 23 年「へっついさん」だったが、25 周年は平成 28 年「全建女(奈良)」だったのを何人がお気づきだろう。30 周年は 2021 年。さて、皆様、どうなさる？

連合会女性委員会

「魅力ある和の空間ガイドブック」推薦

岩城 由里子



日本建築士会連合会女性委員会では「和の空間を体験して、その魅力を再認識できるような建築や空間を紹介するガイドブック（web版）」を作成し、全国各地で公開されている和の空間の事例の中から、魅力的なものやこれからの居住環境への示唆に富んでいるものが紹介されることになりました。日本の住まいのあり方や和の空間、和の要素を改めてとらえ直し、今後の設計活動や居住環境づくりに生かしていただくことが主旨とされています。奈良からの推薦（3物件）を挙げるにあたり、昨秋、女性委員の皆様から多くのご推薦をいただきました。その節は大変有難うございました。遅くなりましたが本誌にて選考等の状況をご報告させていただきます。ご推薦いただきました物件は以下の通りです。

（※（複数）は2名以上の推薦があった物件です。）

1. 志賀直哉旧居 奈良市（複数）
2. 佐伯邸 奈良市（複数）
3. 慈光院 大和郡山市（複数）
4. 中家 安堵町（複数）
5. 依水園 奈良市（複数） / 依水園清秀庵
6. 友明堂 奈良市
7. 山田邸 桜井市初瀬
8. 今西家書院 奈良市
9. 藤岡家住宅 五條市
10. 片岡家住宅 宇陀市
11. 古民家の宿「奈の音」 宇陀市 宿泊施設
12. 奈良町宿 紀寺の家 奈良市 宿泊施設
13. 富田邸 桜井市 宿泊施設
14. 吉野杉の家 吉野町 宿泊施設
15. 川瀬邸 奈良市
16. 笹岡家住宅 宇陀市
17. 松屋本店 吉野町
18. 桂離宮「月見台」京都市

選考は本保委員長、山本規子さん、岩城の3名で行いました。どの建物も魅力があり3つに絞るのは難しかったのですが、皆様からの推薦数、選考条件である「今後の居住環境への示唆に富んでいるもの」や「見学のし易さ」等を勘案し、志賀直哉旧居（昭和初期 現代住宅に通じる和洋折衷様式・数寄

屋住宅）、慈光院（江戸初期 石州流茶道の精神を基にした庭屋一如の空間）、今西家書院（室町中期 現代の和室構成の基本となる初期の書院造）の3物件を推薦させて頂くことになりました。それぞれ建築された時期、用途、特徴などが異なり、学ぶべき見どころも多岐にわたります。選考中、古民家や町家を魅力的に改修した宿泊施設も実体験が出来て良いという意見も出ましたが、宿泊しないと見学できないということもあり今回は選考しませんでした。これから連合会の返答を受け所有者様への許可申請及び取材を行いますので、今後変更の可能性もございますが、取り急ぎ現状としてご報告申し上げます。



志賀直哉旧居（茶室）



慈光院



今西家書院

和室部会“温故知新”改修工事現場見学会
小笠原 香代

昨年の12月17日（日）に女性委員会和室部会主催の見学会が開催されました。改修工事中の現場3件、旧妙楽寺子院 慈門院（客殿・庫裏等）、菅生銘木市場を見学させていただきました。

まずは民家型住宅主屋（明治期）の再生現場へ。伝統工法のつし2階建て住宅で、限界耐力計算による耐震改修や断熱改修について設計者自ら解説してくださいました。施工者からは技術的なことや苦労話等もお聞きでき、住まい手だけでなく多くの協力者の思いがあり、暮らしともに育まれてきた環境が住み継がれていくのだとあらためて感じました。



〔住宅の改修現場〕

次は、旧京都相互銀行（大正期）へ。大正ロマンが感じられる木筋コンクリートレンが造りの建物で、空き店舗からレストランへ利活用されます。外皮のみ再利用され内部は鉄骨造、外皮の木張り部分に木造の名残が感じられます。鉄骨階段は別構造にしないといけない等、行政との調整が難しかったとのこと。実務に携わる参加者からは多くの質問もありました。その後、旧材木商邸宅の茶室・蔵・主屋（明治期）へ。空き家から宿泊所への利活用プロジェクトで、観光案内所としても利用されるようです。格調高いお屋敷の1棟貸しで、既存建物の良さを最大限残す方向で改修されています。後者2つは行政と市民が協力した「桜井市商店街のまちづくり」の取り組みだそうです。

和室の見学時には材木の話で盛り上がる和室部会。材木選びの目を養う為に菅生銘木市場へ。床柱コーナーでは人しぼと天しぼの経年変化の違いを教えてくださいました。多くの銘木についてお話を聞くことができました。板材もどのように仕上げるができるのかと考えながら、使いたい材木を見つけたりと楽しい時間はあっという間でした。



〔菅生銘木市場〕

最後に、現在登録有形文化財申請中でもある旧妙楽寺子院 慈門院へ。客殿の襖絵や小屏風「庭之図」を手本として作庭されたと思われる庭園を拝見しながら、重森三玲氏が調査に来られた時のお話も伺うことができました。

寒さも一段と身にしみる時期でしたがお天気にも恵まれ、とても楽しい一日となりました。用途、工法、目的と様々な改修現場を1度に見れる有意義な時間ありがとうございました。商店街の利活用建物は完成後にまた訪れてみたいと思います。



わたしの好きな格子

國デザイン設計 石黒 國子



平成 28 年から 29 年にかけて
奈良県の県産材を取り入れた物
件数棟に取り組みました。

吉野杉や檜・和紙・なら晒・
赤膚焼き等を積極的に取り入れ
ました。その材料の中で今回は

改めて特に興味をもちました格子の作品をピックア
ップしました。下記にご紹介します写真はすべて奈
良市池之町にて工房を営んでいらっしゃる杉森建具
さんに制作していただいたものです。

吉野杉の氷組に
宇陀和紙を貼った
スタンド照明

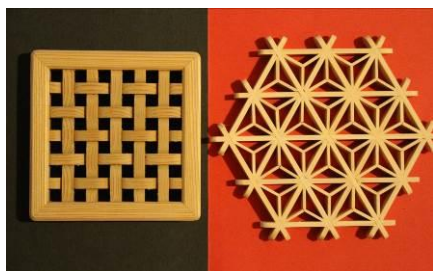


氷組とは組子がクラッシュした氷の形をしていると
ころから名づけられているそうです。宇陀和紙は厚
みがある為、ほんのりとした明かりが漏れてきます。

下の写真は全く違った雰囲気を醸し出している 2
種類のコースターです。

男性的な四角（黒紙）

女性的な六角（赤紙）



どちらも手の込んだ作品ですが、受ける印象が組子
によりこれほど違ってきます。

施主へのプレゼントにしました。

右の写真は建具のガラスに
組子をはめ込みました。

片面をガラスとし、枠内に
収まるよう厚みを押さえた
ものを作っていただきました。

上下とも麻の葉のデザインです



上記の写真は JR 奈良駅すぐの賃貸アパートの室
内廊下部に施した組子です。極薄のワーロン紙を貼
り上下に照明を施しています。

賃貸としてはかなり
贅沢な空間です。



上記の写真も同じく賃貸アパートの各戸玄関ス
ペースです。リビングとの間仕切り壁に施しました。
外出から戻ると格子から漏れるリビングの柔らかな
光が迎えてくれるというコンセプトです。
組子の基本的な型は 10 数種類ですがベースを少し
崩して独創的にしています。

奈良の格子は棧が太く武骨な感じがしますがやや
華奢な作りとしましたので、一般の方にも受け入れ
やすいのではないのでしょうか。

丁寧な仕事と個性的なデザインの提案もしてくださ
いますので皆様もぜひ機会があればどうぞ。

♪♪♪ 今後の事業予定 ♪♪♪

- 2月 1日 (木)
平成 29 年度文化遺産総合活用推進事業
共同パネル展 (～15 日まで)
- 2月 10日 (土)
近畿建築士会女性部会・近畿建築士会
青年部会
- 2月 14日 (水)
既存住宅状況調査技術者講習 (新規講習)
- 2月 15日 (木)
監理技術者講習
- 2月 18日 (日)
文化財建造物専門家育成講習会
- 2月 24日 (土)
奈良市明治地域歴史的建造物調査報告会
- 3月 4日 (日)
文化財建造物専門家育成講習会
- 3月 15日 (木)
理事会
- 3月 27日 (火)
監理技術者講習
- 4月 26日 (木)
理事会

*** 編集後記 ****

いつの頃からかお正月を迎えるたびに、「月日が経つのは早いなあ・・・」と思うようになり、今年も1ヵ月が過ぎました。やはり月日が経つのは早いです!! (笑)

皆さまはどのようなお正月を迎えられたでしょうか。

昨年はフープ発行に際し、大変ご協力をいただきましたこと、お礼申し上げます。ありがとうございました。
本年もフープからお役立ち情報を発信していければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

もうすぐ冬季オリンピック・パラリンピックが開催されますね。今大会はどのようなドラマが繰り広げられるのでしょうか。この日を目標に、日々練習に練習を重ねてこられた選手の方々にエールを送りたいものです。

スポーツ“観戦専門”の私としては、スポーツに挑戦することはちょっと・・・ですが、今年は何か『新しいコトに挑戦する!』そんな1年にしたいと思います。

寒さももうしばらく続きそうです。どうぞご自愛くださいませ。そして、皆さまにとって良い1年になりますように・・・

(奥 宏美)
